

目次

■第1部 合格へのアプローチ

第1章 「極選分析 予想問題集」の特長・使い方	8
第2章 試験概要	15
第3章 プロはこう見る！ 極選分析	26
第4章 本書を活用した学習の進め方	42
☆ダウンロード/Web コンテンツ	46

■第2部 午前Ⅱ問題 レベル4の対策

第1章 システム戦略	52
第2章 システム企画	71
第3章 経営戦略マネジメント	92
第4章 ビジネスインダストリ	131
第5章 企業活動	144

■第3部 午後Ⅰ問題の対策

第1章 事業戦略の策定, 支援	173
第2章 情報システム戦略と全体システム化計画の策定	266
第3章 個別システム化構想・計画の策定	337
第4章 組込みシステムの企画, 開発計画の策定・推進	381

■第4部 午後Ⅱ問題の対策

第1章 事業戦略の策定, 支援	439
第2章 情報システム戦略と全体システム化計画の策定	450
第3章 個別システム化構想・計画の策定	463
第4章 情報システム戦略の実行管理と評価	477
第5章 組込みシステムの企画, 開発計画の策定・推進	480

■第5部 巻末資料

1. 午前の出題範囲	502
2. 問題文中で共通に使用される表記ルール	510

商標表示

各社の登録商標及び商標, 製品名に対しては, 特に注記のない場合でも, これを十分に尊重いたします。

第 1 章

「極選分析 予想問題集」の特長・使い方

試験対策のプロ、アイテックが本試験問題を徹底的に分析し、試験に出やすい問題やテーマを予想しました。選び抜かれた過去問題、頻出テーマを詳細な解説付きで集中的に学ぶことで、必要な知識を効果的に身に付けることができます。

本書はアイテック独自の分析と詳細な解説を軸に、皆様が効率よく学習を進められるよう、充実した内容、構成となっています。

1 試験対策のプロ、アイテックによる「極選分析」

第 3 章「プロはこう見る！ 極選分析」では、本試験問題の分析結果を、統計資料を交えてご紹介しています。アイテック独自の徹底した分析を通して、試験対策のツボを見つけましょう。

第 3 章

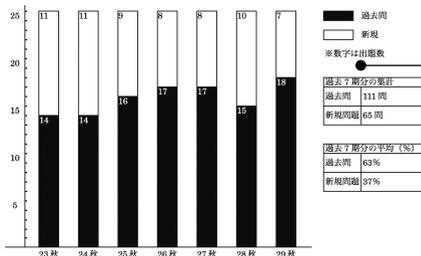
プロはこう見る！ 極選分析

情報処理技術者試験を長年分析してきたアイテックだからこそ、その結果から見てきたことがあります。本章では、アイテックの「極選分析」に基づいて、午前試験を確実に突破するためのノウハウを披露します！

1 過去問を押さえて午前試験で優位に！

■ 1 過去問からの出題が 6 割以上を占めています

アイテックでは本試験毎に、過去問を含めた重複問題の調査を、種別横断的に行っています。次のグラフは、重複問題調査に基づいて、過去 7 期分の IT ストラテジスト本試験（以後 ST 試験）の午前 II 試験で、過去に出題された問題と同じ問題がどの程度含まれていたかを示したものです。ここで過去に出題された問題とは、ST 試験で出題されたものだけではなく、他の種別で出題された問題も含まれます。実施時期によって多少の差はあるものの、平均すると 63% の割合で出題されています。つまり、本番で過去問を全て解くことができれば、突破基準である 60 点を突破できる可能性が高くなります。



図表 過去 7 期分における過去問出題比率

様々な観点から本試験を分析！

「過去問」、「分野」、「頻出度」、「重点テーマ」などの観点から、本試験問題を午前、午後それぞれに徹底的に分析しています。35年に渡るIT教育の実績に基づいたプロの視点と、蓄積された膨大な試験問題の資料を元に、学ぶべき問題を選り出しました。

本試験問題の統計データ

アイテックでは、本試験ごとに問題された問題の統計資料を作成しています。第 3 章ではそれらを活用して、分析の根拠としてご紹介しました。演習問題と合わせて、効率的な学習方法を見つけ出しましょう。

出題のテーマ		(1) 事業戦略の策定、支援	(2) 情報システム戦略と全体システム化計画の策定	(3) 個別システム化構想・計画の策定	(4) 情報システム戦略の実行管理と評価	(5) 組込みシステムの企画、開発計画の策定・推進
問題数		11	11	5	0	9
出題率		31%	31%	14%	0%	24%
H21秋	午後I	問1 ○				
	問2		○			
	問3		○			
	問4					○
H22秋	午後I	問1 ○				
	問2		○			
	問3	○				
	問4					

午後問題の分析表

過去9年間の本試験で出題された午後I・II問題を、テーマごとに分析し、出題年度と出題頻度を一覧で示しています。ITストラテジスト試験の午後問題で出題されるテーマの大枠と重点的に出題されているテーマが分かります。

2 午前IIレベル4の演習問題と詳細解説

「第2部 午前II問題レベル4の対策」では、「極選分析」に基づいて、午前IIレベル4問題の過去問（21年春～29年秋）から、ITストラテジストの試験対策に効果的な問題を選び抜きました。アイテックの詳細な解答解説で午前II試験を突破するための効率の良い学習にお役立てください。

掲載問題リスト

午前IIレベル4演習問題の問題リストを掲載いたしました。掲載問題の「出題年度」、「種別」、「中分類」、「問題タイトル」などを、問題を解く前に確認できますので、苦手な分野や技術、特定の年度に出題された過去問に絞って、ピンポイントに学習する際にお役立ていただけます。

●掲載問題リスト

Q	年度	種別	問NO	中分類	小分類	問題タイトル	CHECK/
第1章 システム戦略							
1	2010秋	ST	1	17	1	業務をモデル化する目的	
2	2014秋	ST	3	17	4	BIの説明	
3	2016秋	ST	1	17	1	EAで機能情報関連図(DFD)を作成する目的	
4	2015秋	ST	3	17	2	業務プロセスの改善活動	
5	2013秋	ST	3	17	1	エンタープライズアーキテクチャ	
6	2013秋	ST	1	17	1	情報戦略の投資効果	
7	2009秋	ST	1	17	2	業務の論理モデル	
8	2009秋	ST	3	17	2	リエンジニアリングの特徴	
9	2014秋	ST	1	17	1	エンタープライズアーキテクチャのBRM	
10	2010秋	ST	2	17	1	全体最適化に含まれる作業	
11	2016秋	ST	2	17	1	SCORで定義している実行プロセス	
12	2016秋	ST	3	17	1	協調フィルタリングを用いたもの	
13	2015秋	ST	1	17	1	戦略マネジメントでの実施項目	
14	2015秋	ST	2	17	1	TCOの算定	

CHECK/欄

苦手な問題や優先的に挑戦したい問題にチェックを入れたり、問題を解いた日付を入れたり、自由にお使いください！

掲載問題&解答一覧

Q	難易度	区分	内容	答	回数
1	☆☆☆	文	業務をモデル化する目的	エ	3
2	☆☆☆	文	BIの説明	ア	
3	☆☆☆	文	EAで機能情報関連図(DFD)を作成する目的	ア	
4	☆☆☆	用	業務プロセスの改善活動	ウ	
5	☆☆☆	文	エンタープライズアーキテクチャ	イ	
6	☆☆☆	用	情報戦略の投資効果	エ	
7	☆☆☆	文	業務の論理モデル	イ	

掲載問題&解答一覧

章末には、掲載問題の難易度・区分・タイトル・解答・出題回数を一覽で掲載しています。出題回数が高い問題は定番問題ということで、重要な知識を問うていますので、ぜひ重点的に学習しておきましょう。

3 各テーマの定番問題・演習問題で実力アップ

「第3部 午後Ⅰ問題の対策」と「第4部 午後Ⅱ問題の対策」では、「極選分析」に基づいて、これまでに出题された午後Ⅰ/午後Ⅱ問題をテーマ毎に分類しました。各テーマに沿って選ばれた定番問題と演習問題を解いて、午後試験突破に必要な解法力を養いましょう。

掲載問題リスト

午後Ⅰ/午後Ⅱ問題リストを掲載いたしました。テーマごとにまとめた掲載問題について、「出題年度」、「試験区分」、「種別」、「時間区分」、「問題タイトル」、「解答目安時間」などを、問題を解く前に確認できます。苦手なテーマや知識分野の確認と克服に活用してください。

問題リスト

トレーニング	年度	試験区分	種別	時間区分	問NO	問題タイトル	解答目安時間	CHECK/
第1章 事業戦略の策定、支援								
1	2012 秋	公開	ST	午後Ⅰ	2	工業用機能部品製造業の事業構造改革	45分	
2	2014 秋	公開	ST	午後Ⅰ	1	食品卸の物流センタの統合と新システム構築	45分	
3	2014 秋	公開	ST	午後Ⅰ	2	産業用自動制御関連機器メーカーの営業戦略の転換	45分	
4	2014 秋	本試	ST	午後Ⅰ	2	小売業におけるリフォーム事業の拡大戦略	45分	
5	2012 秋	本試	ST	午後Ⅰ	1	産業用エネルギー機器の製造・販売を行う企業におけるメンテナンスサービス事業	45分	
6	2012 秋	本試	ST	午後Ⅰ	2	食品会社における営業業務の改革	45分	
7	2012 秋	公開	ST	午後Ⅰ	3	通販会社の販売戦略	45分	
8	2016 秋	公開	ST	午後Ⅰ	2	グローバル展開する建設機器商社の販売・物流管理システム企画	45分	
9	2011 秋	公開	ST	午後Ⅰ	3	損害保険会社の新システム構築	45分	

トレーニング2	テーマにあった問題で演習しよう	45分
----------------	-----------------	-----

● 食品卸の物流センタの統合と新システム構築に関する次の記述を読んで、設問

第3部各章のトレーニング2以降は演習問題！
 テーマに合った良問を解いて、合格に必要な解法力アップ！

解説	トレーニング1：工業用機能部品製造業の事業構造改革	(870344) ■公 12ASTP 1.2
-----------	---------------------------	---------------------------

【解答例】

[設問1] 外部環境：工作機械用の特注部品の設計製造依頼が増えてきている。
 内部環境：顧客のニーズを製品に結び付ける設計技術力を有している。

[設問2] 設計部門の詳細設計の結果必要となる、部品倉庫の部品在庫

[設問3] (1) a：受注設計生産に移行する
 (2) b：従来生産管理システムを利用してこなかった設計部門の担当者
 (3) 機能名称：基準情報管理機能
 使い方：顧客の仕様によって詳細設計した部品構成を部品表マスタに登録する。

● **【配点】**

[設問1]	外部環境：6点，内部環境：6点
[設問2]	8点
[設問3]	(1) a：5点，(2) b：5点，(3) 機能名称：4点，使い方：8点
[設問4]	8点

配点表（本試験問題については、アイテックの予想配点）を活用すれば、現在の自分の実力を把握できます。

第3部各章末のMYカルテに、解答時間、得点、チェックポイントなどを記録しておけば、復習時に役立ちます。

事業戦略の策定、支援 MYカルテ

	1回目			2回目	
	解答時間	得点	チェックポイント	解答時間	得点
トレーニング1	分	点	<input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> もう一度解く <input type="checkbox"/> 試験直前に最終確認	分	点
工業用機能部品製造業の事業構造改革	/ 45分	/ 50点		/ 45分	/ 50点

分野	23 秋		24 秋		25 秋		26 秋		27 秋		28 秋		29 秋		通算	
	出題数	出題率	出題数	出題率												
セキュリティ(11)	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	2	8%	2	8%	2	8%	7	4%
技術戦略マネジメント(20)	1	4%	1	4%	1	4%	1	4%	1	4%	1	4%	1	4%	7	4%
法務(23)	1	4%	1	4%	1	4%	1	4%	1	4%	1	4%	2	8%	8	5%

図表 過去7期分におけるレベル3分野別の出題傾向

H26 春期以降はセキュリティ（中分類 11）分野が強化され、H27 秋以降は 2 問ずつ出題されています。分野ごとに出题される問題の数は少ないのですが、ST 午前試験の突破を確実にするために、レベル3 問題についても押さえておくとい良いでしょう。本書ではダウンロードコンテンツとして、ST 試験で L3 として出題される 3 分野それぞれの演習問題をまとめた PDF を用意しています。L3 の問題は同一種別内で複数回出題されることがほとんどないことから、複数の種別にまたがって出題実績のある問題が選ばれています。

■4 過去問題は○期前が狙い目!?

午前Ⅱ試験では、過去問題の出題割合が多いことは理解いただけたかと思います。しかし、「過去問を学習する」といっても、どれだけさかのぼればいいのか。過去問は大量にあり、学ぶべき分野も広大で、「そんなに午前ばかりに時間をかけてられないよ」という方も大勢いると思います。

そこでここでは、「何期前の本試験の過去問題が出題されているか」について、本試験7期分の ST 本試験午前Ⅱ問題の分析結果をご紹介します。

		本試験						
		H29 秋						
過去問題の出典	H29 春	0						
	H28 秋	0	H28 秋					
	H28 春	3	0					
	H27 秋	6	0	H27 秋				
	H27 春	0	1	0				
	H26 秋	2	10	1	H26 秋			
	H26 春	0	1	1	0			
	H25 秋	2	1	8	0	H25 秋		
	H25 春	0	0	2	1	0		
	H24 秋	0	2	1	11	0	H24 秋	
	H24 春	0	0	0	0	4	0	
	H23 秋	0	0	1	4	4	0	H23 秋
	H23 春	1	0	0	0	0	2	1
	H22 秋	0	0	1	0	5	5	0
H22 春	2	0	0	0	0	2	1	
H21 秋	0	0	1	0	0	1	6	
H21 春	0	0	0	1	1	1	0	

※数字は出題数

注記：春期試験の数字は他種別だけの出題数

図表 本試験7期分における過去問題の出典年度

書籍をご購入いただいた皆様限定!

ダウンロード/Web コンテンツ

①学習前に準備しておきたいコンテンツ

◎「午後Ⅰ問題解答シート」(PDF ファイル)

本書の「第3部 午後Ⅰ問題の対策」に掲載している問題の解答シートをご用意いたしました。午後問題の解答は手書きで記入します。この「午後問題解答シート」を利用して、制限時間内に解答を書き込む感覚を身に付けてください。



◎「午後Ⅱ問題の論文用紙」(PDF ファイル)

本書の「第4部 午後Ⅱ問題の対策」に掲載している論述問題で使う論文用紙をご用意いたしました。手書きの論文を書く機会はまれだと思います。この「午後Ⅱ問題の論文用紙」を利用して、本番で焦ることのないよう、バッチリ対策しましょう。



②学習に役立つコンテンツ

◎「午前Ⅱ レベル3の対策問題」 (PDF ファイル)

午前Ⅱ試験はレベル4を押さえることが最優先。ですが、レベル3の問題の対策もしておけば、より万全の態勢で午前試験突破を目指せます。

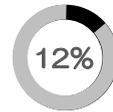
本コンテンツではST試験のレベル3として出題される「セキュリティ」、「技術戦略マネジメント」、「法務」の3分野の演習用問題をPDFファイルにてご用意しております。プリントアウトするもよし、スマートフォンやPC画面で閲覧するもよし、お好みの方法で学習にお役立てください。



第 1 章

システム戦略

このテーマの出題率は



☆解答解説は p.60～

CHECK

Q1

業務をモデル化する目的

情報システムの全体計画立案時に業務をモデル化する目的はどれか。

(H22 秋・ST 午前Ⅱ問 1)

- ア 業務機能を整理し各部門の職務分担を決める。
- イ 業務の実態を具体的かつ詳細に把握する。
- ウ 現状の業務機能の問題点を抽出する。
- エ 組織の活動と情報の関連を構造化して、企業のあるべき姿を示す。

CHECK

Q2

BI の説明

BI (Business Intelligence) を説明したものはどれか。

(H26 秋・ST 午前Ⅱ問 3)

- ア 企業内外のデータを蓄積し、分類・加工・分析して活用することによって、企業の意思決定の迅速化を支援する手法
- イ 企業内の慣行などにとらわれず、業務プロセスを抜本的に再構築することによって、コスト・品質・サービス水準などを改善する手法
- ウ 企業内の業務の流れを可視化し、業務改善サイクルを適用することによって、継続的な業務改善を図る手法
- エ 企業内の異なるシステムを互いに連結し、データやプロセスの統合を図ることによって、効率よく活用する手法

解答解説

A1 エ

情報システムの全体計画は、個別の開発計画に先立つもので、経営戦略と同期した全社的長期的視点からの情報システム開発計画であり、中長期情報システム化計画とも呼ばれる。

企業における全体計画立案に際しては、まず、企業のあるべき姿を前提として、情報システムのあるべき姿を描く必要があり、次に、これを具体的な情報サブシステム開発の項目にブレークダウンして、スケジュール化する。こうした全体計画立案のベースとなるものが業務モデルである。業務モデルは、「企業活動を全社的に分析し、企業が遂行すべき業務を定義してその相互関係を明らかにし、企業活動、その活動に必要な情報、その情報のもち方を構造化したもの」で、「企業経営のあり方を論理的にモデル化したもの」である。すなわち、業務のモデル化の目的は、達成すべき経営課題と関連する業務の関連を把握することと、それらの業務と情報サブシステムとの整合を確保することであり、そこでは、業務実施の現状にとらわれないトップダウンの発想が重視される。したがって、(エ)が正解である。

ア：業務のモデル化は、企業経営のあり方をモデル化することであり、職務分担を決めるためのものではない。職務分担は達成手段の一つであり、全体計画作成の後に考えるべき項目である。

イ：全体計画立案時には、業務のモデル化と言っても、詳細な現状分析を必要とするわけではない。

ウ：業務モデル作成の目的は、現状業務の問題点を抽出・発見することではない。

A2 ア

BI（ビジネスインテリジェンス）とは、企業内外で発生しているデータを系統的に蓄積し、分類・加工・分析・検索する機能を備えて、ビジネス意思決定に役立つ知識を生み出そうとする仕組みやその活動のことなので、(ア)が正解である。米国の H.Dresner が提唱したもので、経営者や一般の管理者などが専門家に頼ることなく、自らデータ分析を行って、迅速な意思決定を行えることを目標としている。

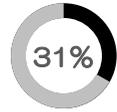
イ：BPR（Business Process Reengineering；ビジネスプロセスリエンジニアリング）を用いた業務改善手法の説明である。

ウ：BPM（Business Process Management）と呼ばれている業務改善手法の説明である。

第1章

事業戦略の策定, 支援

このテーマの出題率は



午後I

第1章

問題
1

第2章

第3章

第4章

トレーニング1

定番問題で解き方の理解をしよう

45分

工業用機能部品製造業の事業構造改革に関する次の記述を読んで、設問1～4に答えよ。

(870344)

〔A社の事業概要〕

A社は工業用の機能部品を製造する中堅製造業者である。A社の主力製品は、工作機械の可動部に使われる緩衝機器である。工業用の緩衝機器は用途別に様々な種類があり、用途に適合させるためには高い設計力が必要になる。工業用機器の業界では、大手企業だけでなく独自の製品や高い技術をもった中堅・中小企業が特定の分野で大きなシェアをもつ場合があり、A社の場合も工作機械用に特化した緩衝機器として高い評価を受けている。

A社の主力製品は、大手工作機械製造業を顧客として見込み生産によって製造できる標準品である。最近では機械部品のインターネット販売サイトの売上が伸びる傾向にある。しかし、顧客の価格重視の傾向は強まっており、これまで高いシェアをもっていたA社製品と同等の製品が他社からも発売されたこともあって、A社は価格競争で負けるようになってきた。

A社の強みは、徹底した品質管理であり、また顧客のニーズを製品に結び付ける設計技術力を有していることである。しかし、標準品でも品質管理に掛けるコストが製品価格を押し上げているため、総合的な競争力が低下してしまっている。また、量産に適さない旧式の製造機械が多いのでコストダウンには限度がある。

一方で、大手工作機械製造業の顧客からは、用途の多様化に対応するため、工作機械用の特注品の設計製造依頼が増えてきている。特注品の場合は、主力製品である標準品のような見込み生産ができないので、注文を受けてから顧客の仕様に合わせて設計を行い製造する受注設計生産の形態をとる。受注設計生産の場合でも、顧客は設計完了後2週間程度の納期で製品を納入することを要望する場合が多いが、A社ではこの要望に対応できていた。受注設計生産の依頼は、今後も拡大すると見込まれた。そこで、A社では事業構造改革のため主力ビジネスモデ

解答解説

【解説】 トレーニング1：工業用機能部品製造業の事業構造改革

(870344)

■公 12ASTP I 2

【解答例】

- [設問1] 外部環境：工作機械用の特注部品の設計製造依頼が増えてきている。
内部環境：顧客のニーズを製品に結び付ける設計技術力を有している。
- [設問2] 設計部門の詳細設計の結果必要となる、部品倉庫の部品在庫
- [設問3] (1) a：受注設計生産に移行する
(2) b：従来生産管理システムを利用してこなかった設計部門の担当者
(3) 機能名称：基準情報管理機能
使い方：顧客の仕様によって詳細設計した部品構成を部品表マスタに登録する。
- [設問4] 設計者の視点で顧客の要求を聞き出して、社内の設計者に的確に伝えるスキル

【配点】

[設問1]	外部環境：6点，内部環境：6点
[設問2]	8点
[設問3]	(1) a：5点，(2) b：5点，(3) 機能名称：4点，使い方：8点
[設問4]	8点

【解説】

工業用機能部品製造業が、標準品の見込み生産中心の業態から特注品の受注設計生産中心の業態へ事業構造改革することに関する問題である。A社はこれまで工作機械用の緩衝機器という特定分野で高いシェアをもっていたが、他社が参入してきて価格競争に巻き込まれたことを機に事業構造の転換を図るという内容である。事業構造改革を行うことによって、事業目標を達成するための主要成功要因（CSF）が従来とは異なるものになるため、企業はそれに合わせて企業体質を変化させる必要が生じる。

[設問1] **ココが要点** 事業戦略の策定、支援：外部環境と内部環境の分析

[A社の事業構造改革]には、その冒頭に「A社の強みを活かしチャンスをつかむ戦略をとる」ことにしたと記述されている。具体的には「(1)特注品の受注設計生産を増やして事業の柱にする」ということである。こうした構造改革がどのような内部環境及び外部環境を重視したことで生まれたかということを経験すればよい。こうした環境に関しては、[A社の事業概要]の内容を参照する。まず、チャンスをつかむという外部環境の面では、「大手工作機械製造業の顧客からは、用途の多様化に対応するため、工作機械用の特注品の設計製造依頼が増えてきている」と記述されていて、これ

を受注するときには受注設計生産の形態をとるということである。したがって、重視した外部環境としては、「工作機械用の特注部品の設計製造依頼が増えてきている」ということを挙げればよい。

次に、A社の強みを活かすという内部環境の面では、「A社の強みは、徹底した品質管理であり、また顧客のニーズを製品に結び付ける設計技術力を有していることである」と記述されている。このうち品質管理に関しては若干やりすぎの面も感じられるような記述があるが、受注設計生産を増やすという戦略のキーとなるのは明らかに設計技術力である。したがって、重視した内部環境としては「顧客のニーズを製品に結び付ける設計技術力を有している」と解答すればよい。

なお、このように内部環境と外部環境を分析してその組合せとして、今後取るべき経営戦略を選定するという手法はクロスSWOTと呼ばれるもので、一般によく使われている考え方である。



外部環境と内部環境の分析

注目!

外部環境と内部環境を分析する技法をSWOT分析と言い、戦略立案の際に使われる代表的な手法になります。SWOT分析では、外部環境と内部環境をさらに良いものと悪いものに分けて分析します。これを整理すると以下の表のようになります。

	良い	悪い
内部環境	強み (Strength)	弱み (Weakness)
外部環境	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)

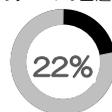
SWOT分析では、この4つの要素を洗い出してそれをいかに対処又は、活用するかを考えることによって、今後の戦略を考えていくことになります。この4つの要素の中でも、戦略を考える際に重要となるのが、強みと機会です。この設問でも、この強みと機会を挙げていくのが良いでしょう。

[設問2]

一般に標準品の見込み生産の場合、製品の在庫もっているので注文に対して製品在庫を引当てて出荷することができる。これに対して受注設計生産では製品在庫をもつことがなく、注文を受けてから製造を開始する。製造を開始するに当たっては製品を構成する部品を確保しなければならない。問題文から部品の調達リードタイムが1か月程度とかなり長く、顧客の希望納期を満足するためには、受注してから部品の調達を手配していたのでは間に合わないことが分かる。顧客の希望納期を遵守するためには設計部門が詳細設計を行った結果必要となる部品を予測して前もって調達し、在庫として保管しておく必要がある。入荷した部品は部品倉庫に格納されることになる。したがって、受注設計生産で引当てられるのは「設計部門の詳細設計の結果必要となる、部品倉庫の部品在庫」である。

第3章

このテーマの出題率は



個別システム化構想・計画の策定

午後Ⅱ

第1章

第2章

第3章

問題
1

第4章

第5章

トレーニング1 ビジネスの変革のためのIT活用について

(870415)

近年、クラウドや仮想化、ビッグデータなどITの急速な発展と普及、低価格化によって、ITを活用してビジネス変革を図るケースが増えている。その具体的な例としては、次のようなものがある。

- ・クラウドサービスを利用したグローバルレベルでのシステム統合の実現
- ・ビッグデータを活用した消費者の購買動向の把握による品揃えの強化
- ・機器の稼働状況をリアルタイムに把握して、部品、製品の需要動向を正確につかむ

これらのビジネスの変革は、他社との差別化やグローバル市場での優位性獲得、大幅なコストダウンによる収益の向上などの経営戦略と密接に結び付き、長期的な企業の持続的な成長に貢献するものも多い。ITストラテジストは、そうした経営戦略との関係も踏まえて、これらのシステム化構想を立案する必要がある。

ビジネスを変革するこのようなITの活用に当たっては、現行ビジネスの分析、先進事例の調査、変革したいビジネスについての業務要件とシステム機能要件の整理などを行った上で、具体的な活用方法を決めていく必要がある。

また、これらの変革を実現していくためには、次のようなことも考慮して、そのITの貢献度を上げる工夫が必要である。

- ・ITの最新動向と自社への適合性の検討
- ・関連システムとの最適な連携方法の検討
- ・現行業務からの最適な移行方法の検討
- ・業務改革、従業員の意識改革の同時進行

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。